

式辞

春爛漫の今日の良き日、東京都立杉並高等学校第七十一回入学式を挙げるにあたり、多数の保護者の皆様のご列席を賜り、誠に有り難うございます。本校を代表し、お集まりいただきましたすべての皆様に、心よりお礼申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました、三百二十名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうでございます。皆さんは今、この晴れの場にあつて、本校での学校生活に、様々な期待をもち、胸を膨らませていることと思います。

皆さんは、今、この場に立つために、スピーキングテストE S A T-Jが導入されたり、男女定数の緩和があつたりと様々な変化に対応し、努力に努力を積み重ねて、見事に一つの目標を実現しました。しかし、このことは皆さんにとっては、ゴールではありません。次なる目標や夢に向けて、今日、ここから新たなスタートが始まります。皆さんには、本校で学ぶ機会を与えられた一人として、その機会を存分に活かしてほしいと思っています。

さて、新入生の皆さんは第七十一期生として3年間杉並高校で学校生活を送ります。杉並高校の教育目標は「自主・素直・気魄」です。本校で過ごす3年間を通して、高い知性、広い視野、強い意志を育み、自主自律の精神と豊かな想像力を養いながら、将来、国際社会に貢献できるリーダーとして成長してくれることを期待しています。

そこで、新入生の皆さんに、二つのことをお話しします。

第一に、本校のスクールミッションは、『自主、素直、気魄』を建学の精神とし、国際理解教育や体系的なキャリア教育、自主的、主体的な特別活動を通じて、豊かな国際感覚を備え、より高い目標に向かって挑戦し、多様性を尊重して共生社会の中で積極的に社会的役割を果たす人材を育成する。」ことです。現在、日本は少子高齢化が進み社会構造が大きく変化し、AIなどの科学技術が急速に発展しています。そして、世界では、戦争、紛争などが後を絶ちません。さらに、環境破壊、海洋汚染、温暖化、砂漠化、食糧難などの世界規模の課題が山積しています。そこで、世界の平和や世界規模の課題解決に貢献することのできる人材を一人でも多く育成することが必要です。皆さんには、東京都という地域社会に貢献するのはもちろんのこと、世界にも目を向け、高い志をもってグローバルな視点で物事を考えることを期待しています。

第二に、本校の目指す学校像は、「豊かな国際感覚を備えたグローバル人材を育成する学校」であり、国際社会に生きる一員としての自覚と、グローバル化の進展の中で、柔軟な思考に基づいて、たくましく生き抜く人間を育成することです。昨年度の校長講話の中で、在校生に、どんな人が、「グローバル人材」と呼ばれる人なのか、どんな資質を持つ人なのかについて問いかけました。英語ができることも重要なのですが、ある世界で活躍する実業家が、「自社商品売り世界に出ていくことが重要であって、言語は必要だが、完璧でなくともよい」と言っていることから英語が流暢に話すことができる人と

いうわけではなさそうです。そこで、ミドリムシを、バイオテクノロジーを応用して大量培養し、地球の貧困や飢餓をなくし、さらにはミドリムシからバイオマス燃料を開発し、ジェット機やロケットを飛ばし、地球の環境破壊を阻止したいと考えた若きベンチャー起業家の出雲充（いずも みつる）さんの著書「僕はミドリムシで世界を救うことに決めた」（小学館新書）を生徒に紹介しました。そこから、グローバル人材とは、世界に向かって挑戦する人であること、自分の専門分野、自分が関心があることや自分の好きなことをもち、自分の探求テーマとし、それを常に追求することが重要であり、今後は文理融合の時代が訪れ、科学的な視点を持たなければ世界規模の課題は解決できないことを伝えました。新入生の皆さんには、これからの3年間で、例えば「平和」「平等」「ジェンダー」「貧困」「環境」「文化」「教育」「生命」「生物」「自然」「宇宙」「経済」「産業」など、大学へ行って自分が研究し、解決したい探究テーマを高校生活3年間で、考えて、見つけて欲しいと願っています。

最後に、今年度も保護者の皆様に、できる限り学校の状況等の情報をお知らせしてまいりますので、公開授業、学校行事、保護者会、三者面談等の折には、ぜひ学校においでいただき、生徒の様子をご覧になっていただけますと幸いです。学校と家庭が手を携えて、同じ方向をめざして共に育て・育むことが、お子さまの健やかな成長につながると考えますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆さん、皆さんが高い目標・高い志をもち、勉強にも、部

活動にも、学校行事にも主体的に取り組み、実りのある学校生活を送
ってくれることを祈念して、私の式辞といたします。

令和五年四月七日

東京都立杉並高等学校 校長 高橋 聡